

心情多文化共同体のための祝祭文化

－ 統一思想芸術論を中心に－

趙 応泰 (Jo, Eung Tae / 鮮文大学神学専門大学院)

I. 序論

II. 韓国の多文化社会の状況

III. 世界宗教の祝祭文化

IV. 統一教の心情多文化祝祭

V. 結論

----- (要約) -----

歴史的に宗教共同体は、縦的に神を崇拜し神人一体となる祭典と、横的に参加者達が喜び楽しむ祝典の結合である祝祭を創案して布教効果をおさめた。祝祭は文化コンテンツの総合である。

第二次世界大戦以後勃興した統一教は、天一国創建という未来の目標に向かって進んでいる。真の御父母様の教えはすでに十分に提示され、8大名節も宣布された。後は真の子女となった我々の悩みや努力による天一国創建の方法である。

そして韓国は現在、多文化社会へと急変する情勢とともに、祝祭文化のコンテンツ開発が盛んである。その結果として、韓流文化が世界へ進出している。韓国は現在 '多文化' と '祝祭' という二つの単語が変化と発展の核心話題になっている。

本考察は韓国のこのような変化が、天一国を目前として復帰摂理的な意味があるということ的前提に、統一思想の芸術論を根幹に、統一教の名節の祝祭文化として、'心情多文化共同体' を具体化し、人類を一大家族に結ぶ中心的役割に立って天一国創建に貢献しようと思う。

主要単語：心情、多文化社会、祝祭、成約、8大名節、文化コンテンツ、

I. 序論

1. 研究目的

本研究の目的は『統一思想』の '芸術論' を元に、神様の心情が込められた統一教の名節を祝祭として発展させながら、未来の多文化社会の中心軸の役割となり、世界を '心情多文化共同体' (天一国) として具現することに貢献することだ。

統一教が 1988 年に行なった国際祝福合同結婚式を始めとして、韓国では国際祝福結婚家庭(多文化家庭)が急増した。21 世紀に入って韓国では '多文化社会' と '祝祭文化' と言

う二つの話題が国民の関心事になった。これは天一国到来の兆候である。ところで、このような変化の中心に価値観が正しく提起されてこそ幸福に繋がる。すなわち神様の心情を中心として、美と愛が充満する幸せな多文化共同体を成すべきことが、創造目的を完成するということであり、人間の本性的欲求を満たすということだ。

旅行の自律化とインターネット技術の発展などで世界の人々の往来が頻繁になることによって、自然と地球村多文化共同体が具現されている。世界が多文化共同体に変化していく傾向になっていくことは避けられない実情であり、またそのようにならなければならない。このような避けがたい波を肯定的な方向に制御するには、'神様の心情主義'¹を共同体の中心に祭る'価値観の革命'がなくてはならない。

多文化価値観の革命のための方法として、統一教の祝祭文化を活性化することが有益である。祝祭は言語、人種、芸術、宗教、民族、多様な文化を超越し、参加者皆が共に楽しい雰囲気を作りながら一つになれるようにする。祝祭は総合芸術であり、多様な文化をまとめあげながら更に新しい文化を創造する役割が出来るし、しなければならない。

それゆえ神様の心情が込められた統一教の名節を祝祭文化として発展させ、多文化共同体の中心軸になる価値観の役割を果たすようにしなければならない。統一教の追い求める未来は、全人類が神様と真の御父母様に侍る一つの大家族である天一国を創建することである。これは'神様の心情'に'祝祭文化の特徴(和合と統合と歓喜)'を結び付け、統一教の祝祭文化を創案し、人類が共に神様と真の御父母様に侍りながら共に楽しく暮らす共生共栄公義の世界である天一国を形成することである。"再臨のメシアを中心として、全人類は一つの園で一つの大家族を成し、仲睦まじく暮すことができるだろう。"² という末世の予言は統一教の祝祭文化で具現できるし、具現されなければならない。

2. 研究方法と範囲

1) 研究方法

研究方法には統一思想の'芸術論'を基本概念にし、祝祭を'祭典と祝典の結合'として前提する。そしてプラトンの見解に従って、'祭典の中に祝典が含まれる。'ということをも土台とした。すなわち、祝祭を縦的な要素である祭典(主体である神に仕えること、神秘と畏敬の体験、Cosmos)と横的要素である祝典(対象である人間が楽しみと興の中で共に一つとなる霊性共同体体験、Chaos)の二つの構成要素に区分した。祭典と祝典は、'性相と形状'³の関係を持っている。それゆえ'神様の心情を中心とした心情主義'に基づいた祝祭文化が正しいのである。心情が欠けたり、神様を排除させたものは真の祝祭ではない。

¹ 統一思想研究院、『統一思想要綱』(ソウル: 統一思想研究院、1993)、p. 439.

² 世界基督教統一神霊協会、『原理講論』(ソウル: 成和出版社、1966、2006(42刷))、p. 141.

³ 統一思想研究院、『統一思想要綱』、p. 434

ホイジンガ(J. Huizinga)は“遊びとはすべての文化よりもさらに古いものだ。”⁴ と言
い、祭典よりも祝典を重視した。現代の韓国の祝祭はホイジンガの立場を取っているのだが、
これは‘心情主義’とプラトンの見解で修正される必要があり、本考察がこのような時代的
課題の遂行に貢献しようと思う。

そして本考察では、人間に対する定義の中で、‘宗教的人間’と‘祝祭を楽しむ人間’とい
う特性を選択する。よく人間がどんな存在なのかについて、‘宗教的人間’(Homo
Religiosus)、‘遊ぶ人間’(Homo Ludens)、‘祝祭を楽しむ人間’(Homo Festivus)、‘知恵を持
った人間’(Homo Sapiens)、‘道具を使う存在’(Homo Faber)などと規定する。⁵

人間は祭典と祝典を合わせた祝祭を作って楽しむ‘祝祭的存在’になる時、神様が創造し
た‘エデンの園’(The Garden of Eden, 歓喜の世界)の主人公になる。すなわち祝祭は、主
催者と観客たちが縦的には宗教儀礼を行い、横的には共に飲み食いし、楽しみを追求しなが
ら霊性共同体(Spiritual Community)のアイデンティティを確立することであり、人間のみ
が持つ特別な生の様態である。

2) 研究範囲

本研究の範囲は、統一教が‘旧約-新約-成約’の伝承を持っているので、世界宗教祝祭の
文化研究ではユダヤ教とキリスト教の祝祭に限定する。そして統一教が韓国という基盤を持
っているため、韓国の祝祭文化の実情を考察してみる。

3. 祝祭の理解

祝祭は祝いの祭典、祝いと祭祀(祭事)、carnival(謝肉祭)⁶、celebration⁷、gala、
festival、feast などと表現される。日本ではマツリ(祭り)と言われているが、その意味は
‘祭は仕えること(to worship)’であるためだ。漢字で‘祭=肉+右手(又)+吉凶を下す(示)’で
あるが、その意味は‘魚を捕って神に捧げることにより、吉凶の像を下すこと’になる。そ
のため祝祭の中心に含まれる祭儀は、‘縦的には神に真心をつくし供え物を捧げ仕えること
により、神霊と神人一体を成し、横的には構成員間の調和と秩序を回復しようとする事’⁸
だ。祝祭は宗教から始まり、神と人間、人間と人間の間常に新しさ(改革)を維持しようと
する決断の更新が成り立つようにし、そのような後に喜びを楽しい遊びにつなげる。

⁴ Johan Huizinga. Homo Ludens. クオン・ヨンビン. 『遊びをする人間』(ソウル: キリンウォン、1989)、p. 11.

⁵ イ・ウンボン、『遊びと祭り』(ソウル: 図書出版主流、1982)、p. 7.

⁶ ラテン語 caro(肉) + levar(除去); 四旬節(Lent)((Ash WednesdayからEaster Eveまでの40日; 断食と懺悔を行う)。

⁷ celはラテン語 caelumから由来したもので、sky、heavenである。

⁸ キム・テギョン、『韓国の祭りをもう一度見る』(坡州: 韓国学術情報、2006)、p. 13.

統一思想から見ると、“文化は政治、経済、教育、宗教、思想、哲学、科学、芸術などすべての人間活動の総和である。”⁹ 祝祭ではこのすべての要素が調和と統合を成すことができ、神様を中心として‘文化的個別性と普遍性’¹⁰が調和し、神様と人間が共に喜びを追求する時空を作る。祝祭を通して‘各民族の文化が保存されながら、統一文化を成す事’¹¹が可能になる。“神様と人間が性相と形状を相対的に感じながら、喜びを得ることができる”¹² 最も良い機会が祝祭だ。祝祭は総合芸術である。“芸術の力は一瞬で人間を水準の高い位置に導き、変化させることができる潜在力を持っている。”¹³ そのため心情を中心とした祝祭は、墮落人間を本性的人間に復帰する力を持っている。

エリアーデ(Eliade)は、“祝祭に宗教的に参加することは、日常的な持続から脱し、祝祭そのものによって再演された太初の時間へ復帰することを含む。”¹⁴ と言った。制限的な存在として創造された人間は、畏敬と崇拜の対象である神的な存在に仕えながら、秩序整然としているコスモ体系(Cosmos System)の人生を望みつつ、さらに自由奔放なカオス体系(Chaos System)を楽しむ両面性を持っている。コスモとカオスは共存が不可能に見えるが、週期的に交叉されることによって存在基盤を強固にすることができる。被造世界は神様の二性性相に似ていて、性相と形状、陰と陽、緊張と弛緩、昼と夜の相対的關係を持っている。日常生活がコスモであり緊張だとしたら、祝祭はカオスであり弛緩である。

祝祭は創造本然の人間の姿を取り戻すようにする効果を持っている。それゆえ現代の祝祭は本来の意味として、神を祭る祭典をまず回復しなければならない。商業化に牽引され、興に乗じた祝典にのみ傾くようになると、本来の祝祭文化と関係がなくなり、共同体に分裂と葛藤を引き起こす可能性がある。

世界が一つの地球村として認識されている現代社会では、多様な文化コンテンツが紹介されていて、祝祭はこれらをまとめたり、更に新しい文化を創造するシナジー効果を作る。今韓国は統一思想を根拠とした新しい祝祭文化として、心情多文化社会を形成して行かねばならない。それがアダム国家である韓国が、天一国創建において先駆的で手本となる使命を果たすことだ。

II. 韓国の多文化社会の現況

⁹ 統一思想研究院、『統一思想要綱』、p. 417.

¹⁰ 統一思想研究院、『統一思想要綱』、p. 445.

¹¹ 統一思想研究院、『統一思想要綱』、p. 446.

¹² 世界基督教統一神霊協会、『原理講論』、p. 45

¹³ 世界基督教統一神霊協会、『文鮮明先生の御言葉選集』第310巻（ソウル：成和出版社、2002）、p. 222.

¹⁴ M. Eliade, The Sacred and the Profane (New York: Harcourt, 1959)、pp. 53-54.

韓国では 2011 年 2 月を基準として、外国人居住者が全体人口の 2.7%となる 130 万名に達し、国内の結婚移民者は 142,387 名であり、女性が 86.2%を占める。そして北朝鮮を脱出して来る 北脱出者も 23,000 名にもなる。

ヨーロッパの移住民の割合がスウェーデン 18%、ノルウェーとドイツ 11%、デンマーク 8%、フランスとイギリス 7%、スペインが 6%に達したことに比較すると、韓国はまだ外国人の割合が低い方だが、今後増加の趨勢であることは明らかである。特に韓流文化が世界へ伝えられながら、Korean Dream を持って韓国に押し寄せる勤労移民者、結婚移民者、留学生などが増加している。科学技術、教育¹⁵、音楽、芸術、スポーツなどの外国文化が韓国に流入する時代を脱し、21 世紀は韓国文化が世界に進出するようになった。

韓国国籍に帰化した人々も増加している。彼らの中には親孝行の事例になる者もいる。¹⁶北脱出者チョウ・ミョン Chol さんが統一教育院の院長に就任し、南北統一と北脱出者問題について働いているし、ドイツ人として帰化したイ・チャムさんは韓国観光公社の社長に任命され、その他にも警察公務員、多文化カウンセラー、ネイティブスピーカー教師、教授、芸能人、スポーツ選手などとして活動する人々が多くいる。国防省では多文化家庭出身の入隊者が増えれば、軍隊も米軍のように多文化軍に再編される可能性がある分、幹部養成教育と長兵教育で多文化関連教育を定期的に行っている。将校就任宣誓文でも '国家と民族のために忠誠' と言うのを '国家と国民のために忠誠' と変え、単一民族を越えて多民族を含意している '国民' を強調している。¹⁷

このように毎年勤労者、スポーツ選手、結婚移民者数が 20% 位に拡散する趨勢であり、肯定的事例も多いが、多文化社会を主導する '価値観' が不足していて各種の犯罪や事件が起こる。多文化に対する無知、国際結婚を合法的な人身売買と勘違いする愚かさ、家庭暴力と殺人、不法滞留者の増加、賃金搾取、多文化家庭の子供たちの学業不振による中途脱落、¹⁸などが頻繁に起き、社会的問題となっている。2011 年 7 月 22 日、ノルウェーでブレイビクという青年が多文化社会への転移を嫌悪し、多文化家庭の子供たちに無差別銃撃を行い世界に衝撃を与えた事件があり、すでにドイツとフランスはイスラム人たちが同化を拒否し葛藤と摩擦を起こすことによって、遂に多文化社会の受け入れを拒むことを公式的に表明した。

¹⁵ キム・ヒョンギ、'師弟文化がほろびれば'、『朝鮮日報』、2011. 7. 13. 39面。ソウル大教育学科は教授22人の中20人がアメリカ博士だ。アメリカで新種の学習理論が出れば、彼らを通じて直ちに韓国に紹介され実験される。

¹⁶ パク・ヨンジク、'夫と死別しても情の移った姑を去る事ができない'、『世界日報』、2011. 6. 1. 29面。ベトナム女性で結婚移民者のヌエンティ・ビッボン(24歳)が父母によく仕え、外換銀行が授与する第3回多文化家庭対象を受賞した。

¹⁷ チェ・ギョンフン、'多文化時代、軍宣誓文に '民族' 消える'、『朝鮮日報』、2011. 04. 18. 1面。

¹⁸ ノ・ジェヒョン、'韓国語のできないベトナム花嫁'、『中央日報』、2011. 5. 27. 34面。多文化家庭の子女達の中で、小学校の年である7-12歳の多文化家庭の子供達の中 80.8%が学校に通っている。中学校の年では60.6%、高校の年では26.5%のみ学校に通っているという位、年を取るほど進学率が落ちる。

一方では多文化社会、多文化世界への変化の波を止めることができず、またそのように発展するように望みながらも、他方ではそのような変化をもたらす否定的な姿が我々を心細くさせる。このような点を考慮して、韓国政府は 2011 年 3 月 11 日に多文化家族支援法を国会で通過させ、国務総理室直属で '多文化家族政策委員会' を稼働している。¹⁹

III. 世界宗教の祝祭文化

人間は古代から神に仕える厳肅で、神々しく、荘厳な祭典を行ってから、神と共に飲み食いし踊り楽しむ祝典を一緒に進めた。祭典だけあるならば人間は窒息しそうだが、祝典があるがゆえ存在の喜びを感じながら参加者全員を一つの共同体の構成員として抱え込む余裕を持つことができた。祭典と祝典は性相と形状、縦と横の関係を持つ。神に仕える厳肅な時間は、構成員たちが共に興に乗った楽しい時間を持つ祝典で弛緩される。祭典と祝典の二つが調和を成す時に、人間は安定を見つける。

世界宗教は祝祭文化を適切に創案し活用して、信徒間の団結を強固とし布教の効果をおさめた。少数の信徒たちだけが参加する'祭儀共同体'(Ritual Community)に祝祭文化を結合させて、'社会的共同体'(Social Community)に拡張させ、さらに大きくは国交を持つ国家(世界に広く分布したキリスト教国家、タイの仏教国家など)を誕生させたりもした。

1. ユダヤ教

ユダヤ人たちは B.C. 1500 年頃にモーセ(Moses)がシナイ(Sinai) 山上で受けた十戒を主要教理としながら多様な祝祭文化を作ったため、今まで堅固なユダヤ人共同体を形成して来た。安息日、安息年、稀年、喇叭節、大贖罪日などをはじめ 3 大祝祭がある。新年の祝祭である逾越節(Passover)と無酵節、春の収穫が終わったことを感謝する五旬節(殉節節)、秋の収穫を感謝する 草幕節(仮庵の祭り)の祝祭がある。²⁰ これらは祝祭が持つ典型的な形態として<縦的に神に仕えること + 横的な興の共有>を上手く維持した。

このような祝祭文化として、堅固な結束力を強化したモーセが率いたエホバ共同体(Yawhistic Community)であるユダヤ教は、'エホバに仕える純潔文化'としてカナンの地にいた異邦人の'バール(Baal)とアシラ(Asherah)の混合文化'を打ち砕いた。出エジプトしたイスラエルの民たちがカナン(Canaan)の地に入居したのは結局祝祭文化の勝利だった。今も世界の至る所に散らばって暮すユダヤ人たちは、祝祭文化として彼らのアイデンティティ(正体性, Identity)を持って信仰共同体を維持している。

ユダヤ教の祝祭文化が日本に継承されたという見解がある。日本には神道があり、国技として知られている相撲がある。相撲は聖書の創世記 32 章の天使と組み合って勝利したヤ

¹⁹ キム・スミ、'多文化葛藤は増えるのに腕を組んでいる政府'、『世界日報』、2011. 7. 27. 1面。

²⁰ 聖書レビ記 25章

コブの話から発祥した祝祭文化の遺産だ。相撲は天使と組み合って‘放り投げ勝った人’だ。古代日本では相撲は天皇の前で行われた神事の祭りであったし、ヤゴブの精神を受け継ぐ神の国民になろうという精神が込められている。日本人が聖書のヤゴブのように、強く信仰心にあふれる民族になることを渴望する思いから、相撲祭りを創案した。²¹そして日本の多くの祭りに登場する神を祭る御輿(神輿)は、聖書で契約の箱(法櫃)を担いで行ったレビ(Levi)支派の祭り行列を連想して作ったものであったし、その御輿を祭る神祠を聖書の聖幕の大きさと同一に合わせたりもした。すなわち日本の祭り文化には神様を敬い仕えるユダヤ教の祭典がその中心に位置している。

2. キリスト教

キリスト教は春の復活節²²、秋のハロウィーン(Halloween)²³ 祭とサンクスギビング・デー、冬のクリスマスとサンタクロース²⁴などの祝祭文化を持っている。特にクリスマスとサンタクロースは世界的な祝祭として定着するようになり、それはキリスト教の教理の間接的な伝播に影響を及ぼし、漸進的にキリスト教文化を中心に世界を再編している。

イエスキリストは踰越節(過越の祝い)に捧げられる羊として犠牲になられた。祝祭の期間に使う供え物の代りに、彼が祭物になって十字架で亡くなり²⁵再び復活した。それゆえキリスト教はユダヤ教の踰越節に代わり、復活節とした。”踰越節はイエスキリストの十字架の苦難を予見したものだ。”²⁶

イエスキリストの復活後 40 日間の伝道活動以後に五旬節祝祭になった。使徒たちは師匠を失った悲しみの中で集まっていった。その時聖霊が火のように降臨し、彼らは放言し始め

²¹ 日本の島根県にある博物館にこのような内容の資料が保管されている。

²² アン・ジョンス、『世界文化観光』(ソウル: ペクサン出版社、2007)、p. 336.

ユダヤ教の新年の祭りの風習が残っている。多産の象徴である卵に絵を描いてプレゼントしたり、家々を訪ねながら卵をもらい集める。前日の夜に様々な色を塗った卵を庭に隠しておいて、子供たちが見つける遊び(East Egg)がある。復活節の朝には早く外に出て、日の出を迎える。しゃべらない。川から汲み出した水を体に塗る。特にその水は美しさと健康をくれると信じ、眼病をはじめとした病に良いと信じている。

²³ アン・ジョンス、『世界文化観光』、p. 337. この起源はアイルランドとスコットランドに住んでいたケルト族にさかのぼる。新年(11月 1日)前夜の 10月 31日の夜にAll Hallows Eveがあった。前年度に死んだ人のために供養をすると同時に、妖精や魔女が猫に化けて出没する日である。これがアメリカに伝わって、悪魔の顔がカボチャに変わり、恐ろしい万聖節が子供達の楽しむ日になった。学校から帰って来た子供達は、一週間前から妖怪の仮面をかぶって家々を歩き回りながら、'Trick or Treat'(食べ物をくれなければいたずらするぞ)と言う。キャンディーをたくさん集める。

²⁴ アン・ジョンス、『世界文化観光』、p. 200. 12月 6日は聖ニコラス(St. Nicholas) 又はオランダ語でシントクラスだ。オランダ人シントクラス(Sinterklaas)の誕生日が12月 6日である。誕生日の3週前にスペインから蒸気船に乗ってオランダに来る。生中継になり、子供達の祭りであったが、今は家族全体の祭りになった。これがアメリカに渡って、クリスマスのサンタクロースになった。

²⁵ ヨハネの福音書 19:31-37

²⁶ Daniel Fuchs、Israel's Holy Days、ボイス編集社訳、『聖書の節気と聖日』(ソウル: ボイス社、1985)、p. 38.

た。有名なペテロの五旬節(五殉節)の説教もこの時に行われた。彼の言葉を聞いて悔い改めた人々が数千名に達した。初期のクリスチャンたちは五旬節の祝祭の期間に聖霊体験をして昔の存在(Old Being)から新しい存在(New Being)に生まれかわり、絶望から起きあがりキリスト教を成す核心聖徒たちとなった。使徒たちは五旬節を ' 聖霊降臨節 ' に改め、伝道効果と共に心強い共同体の基盤を構築した。"ユダヤ教の五旬節の祝祭はキリスト教で聖霊降臨節の祝祭に転換された。"²⁷ キリスト教は十字架とともに聖霊降臨節という祝祭があったため誕生が可能だった。

キリスト教は秋にハロウィーン祭と共にユダヤ教の草幕節(仮庵の祭り)をサンクスギビング・デーに転換し、新しい祝祭文化を作った。サンクスギビング・デーはヨーロッパとアメリカ大陸では欠かすことのできない祝祭として定着し、そのことがキリスト教文化を形作る原動力となった。

結局旧約時代から新約時代への転換は、祝祭文化の移転から始まった。

3. 韓国の宗教祝祭

韓国には 1 年に 24 節気²⁸があり、毎月二回ずつ特別な日として記念した。現在の韓国は "祝祭の洪水時代を迎えている。"²⁹ 韓国のご先祖達はマーティンの言った "この世界は神と人間の遊び場だ。"³⁰ という思想を早くから共同体次元で生活化した。すなわち名節の遊びは単純に時間を潰すための遊び (pastime) や物欲の充足として楽しむための遊び (amusement) の次元を越えて、宗教的儀礼をより尊重する美風良俗だ。

21 世紀に入り、ウェルビーイング (Well Being) を謳歌する住民たちの文化的欲求を満たすために、地方自治体らが主導する郷土祝祭の文化が量産されている。しかし祭典の内容が色褪せたまま商業性と遊興が強調され、祝祭文化として霊性的共同体を支えて来た伝統が衰退して物的共同体に変質する危険に直面している。

1987 年韓国文化芸術振興院が発行した『韓国の祝祭』によると、民俗行事が含まれた全国の郷土文化財の数は 361 個であった。これらは現代に創造された祝祭 54.4%、戦勝の祝祭 36%、伏願の祝祭 9.6% で構成されている。そして祭典が抜けて祝典だけ残ったもの 62 個、祭典が記念行事としてだけ残ったもの 56 個、1960 年以後の現代に発生したもの 135 個、儀礼対象として巫俗神³¹ 63 個、歴史的人物を祭るもの 40 個、檀君 6 個などに分けられる。1860 年以後勃興した新宗教に関しては檀君御天祭典が 1 個ある。

²⁷ Daniel Fuchs、Israel's Holy Days、ボイス編集社訳、『聖書の節気と聖日』、p. 54.

²⁸ 小寒、大寒、立春、雨水、驚蟄、春分、清明、穀雨、立夏、小満、芒種、夏至、小暑、大暑、立秋、処暑、白露、秋分、寒露、霜降、立冬、小雪、大雪、冬至 などである。

²⁹ キム・テギョン『韓国の祭りをもう一度見る』、p. 77.

³⁰ Martin G.M、Fest und Alltag、キム・ムンファン訳、『祭りと日常』(ソウル: 韓国神学研究所、1985)、pp. 55-59.

³¹ 山神、竜往信、社稷神、都道お婆さん、都道 お爺さん、城隍神、村の守護神、ソッテチャンスンなど

2006年には祝祭が 486個に増加した。³²人物を中心とした祝祭は 36人現われ、李舜臣、世宗大王、李 栗谷などはいくつかの地方で重複して現われた。韓国伝統宗教に関連した儀礼(巫女による儀礼、山神祭、龍王祭など)は全体の約半数を占めるのだが、新宗教に関連した内容は '法聖浦 端午祭' で円仏教の聖地を紹介するものが唯一である。

以上の考察からも明らかなように、統一教の名前で知られている祝祭は一つもない。2011 年旧暦 1 月 1 日 -1 月 6 日の間に初めて天福宮で祝祭文化を開催した事があるが、やはり世間に知られたわけではなく、食口たちに限定されている。アメリカと世界に紹介されている韓国が生んだ有名人 100 人中に新宗教人が 7 人が³³含まれているのだが、ここでも真の御父母様は抜けている。

文化的な新しさはすなわち神と人間と万物と共同体に新しさ(Novum)を呼び起こす。 " 文化的革新(Cultural Innovation)を失うようになれば、すでに新宗教ではない。" ³⁴既成宗教たちの隙間で韓国の近代化とともに勃興した統一教は、今まで多様な '新しい文化コンテンツ'³⁵として韓国をリードしながら名声を高めた。現代の '多文化社会' と '祝祭文化' の時代を迎え、統一教は '心情多文化祝祭' として '新宗教運動'(New Religious Movement)、'復興運動'(Revival Movements)、'再生運動'(Revitalization)、'改革運動'(Reform Movement)³⁶などのイメージがあふれる教団にならなければならないし、多文化共同体の具現をリードしていかねばならない。

IV. 統一教の心情多文化祝祭

統一教は '神様の心情' を重視する。 " 心情は神様の性相の核心部分"³⁷であるために、心情から創造の動機があり、その結果として喜びを追求する欲望がある。心情は創造と許しと慈悲と復帰の原動力だ。真の人間になろうと思うなら真の父母であられる神様の心情を相続し、'心情の真の子女' にならなければならない。心情は万物にも、次元は違うが与えられている。それゆえ人間と万物は心情を媒介にして相互交感しながら連体的関係を維持することができ、3大祝福を成して神様の前で喜びの共同体を成すことができる。

³² ハン・チャンファ、『韓国の祭り』(ソウル: キョハク社、2006)、pp.1-11.

³³ Center of Korean Spirituality Awakening Movement、100 Korean Heroes and Heroines (Seoul: Baekryoung Building、2009)、p.75-80. チェ・ジェウ、キム・ハン、ナ・チョル、カン・イルスン、パク・ジュンビン、カン・デソンなどは韓国の宗教指導者として現れ、チェ・シヒョンは独立運動家として描写されている。

³⁴ Nelson G.K. 'Cults and New Religion : Toward A Sociology of Religious Creativity'、Sociology & Social Research、1984、p.301.

³⁵ 代表的にリトルエンジェルスがある。貧しくて '麦峠' の時代と言われていた 1963 年に華やかな芸術団が作られ、その後韓国の威信を世界に知らせる役目をした。韓国文化を知らせながら、韓国の発展と韓国の安否を維持することに貢献した。

³⁶ 韓国精神文化研究院、『現代新宗教の理解』(盆唐: 精神文化研究員、1994)、p.5.

³⁷ 統一思想研究院、『統一思想要綱』、p.58.

心情と喜びは内外の関係を持つ。神様の心情を相続するものが祭典だとしたら、喜びを満喫するものが祝典である。神様に仕える儀礼行為で神様と人間が父母と子女の関係というアイデンティティを確立し、神様にのみ仕えることを約束し、真の子女の姿を更新する。神人一体となったその喜びの境地を、多様な芸術行為として表現するものが祝典であり、この祭典と祝典を合わせれば祝祭になる。神様が創造したこの世界は喜びが充満する世界、エデン(歓喜)の園だ。人間が墮落しなかったならば日常生活全体が祝祭の連続であり、日々神様と共に喜ぶ心情を体験する。

人間は本来神様の心情の中で五色人種が各々特有の地域環境に従って形成された固有の文化を祝祭で一緒に楽しみながら、'霊的心情多文化共同体'を成すように創造された。そのような世界がすなわち天一国である。ところが墮落によって差別と無視と国境線が生ずるようになり、物質的で利己的な快樂に溺れる社会をつくってしまった。このような世の中を復帰するために、真の御父母様は 2003 年 10 月 3 日、第 16 回 '世界統一国開天日'を迎えアメリカマンハッタンセンターにて 150 ヶ国の代表 1,500 人余が参加した席で、超宗教超国家平和 UN (IIPC) 創設大会を行い、'国境線撤廃'を主唱した。

国境線撤廃が先決されてこそ、天一国は創建されることが出来る。国境線を越えることができる方法の一つが、心情多文化祝祭を開発することだ。神様の心情の中で、すべての祝福家庭の食口たちが一所に集い、多文化祭典と祝典を行う事によってこそ、天一国創建に革新的な寄与ができるだろう。祝祭は皆を一つに調和させ、力強く、神秘的な力を持っている。

実際の例として、韓国にいる祝福家庭たちが祝祭に招かれ、彼らの国の文化を紹介し公演しながら大きな脚光を浴びている。全国で行われている祝祭ごとに、多文化家庭が出演するのだが、その場にかかさず登場する祝福家庭の効果は実に大きいものだ。祝祭は言語、思考、衣食住、芸術などの違いを一つに和合させ統合させる機能を持つ。祝福家庭は祝祭を通じて統一教のイメージを十分に知らせる効果を果たしており、政府機関との連携も円滑になり、宗教間の和合と対話も成功的に成している。

しかしこれだけでは不足している。我々が世の中の祝祭に入っていくことも重要だが、統一教の祝祭に世の中が入って来るようにすることが更に重要である。すなわち統一教の祝祭文化に人々が参加して感動を受け悟りを得るようにすることこそが、効果的な布教の一つの方法であり、天一国創建の秘法である。'文化コンテンツの開発'と'祝祭文化'という二つの軸が支配する現代を迎え、統一教は統一教固有の心情祝祭文化を通して世の中を抱擁し、人々がやってくるようにしなければならないだろう。"人間始祖アダムとエバの墮落によって喪失してしまった神様の創造目的を完成するための蕩滅復帰摂理路程には、必ず捜し立てなければならない四位基台の道しるべがある。神の日、父母の日、子女の日、万物の日がそ

れだ。”³⁸という御言葉のように、大きな意義を持っている名節を多文化祝祭へと拡大させて、社会的次元の祝祭になるようにしなければならない。

統一教の名節を祝祭文化にするための案を何種類か整理してみる。8 大名節は真の御父母様の御生誕日(1920. 陰暦 1. 6)、真の父母の日(1960. 陰暦 3. 1)、真の子女の日(1960. 陰暦 10. 1)、真の万物の日(1963. 陰暦 5. 1)、真の神の日(1968. 陽暦 1. 1)、世界統一国開天日(1988. 陽暦 10. 3)、七一節(1971. 陽暦 7. 1)、七八節(1997. 陰暦 7. 7)だ。

1. 真の神の日

1968 年 1 月 1 日に発表され、6 千年ぶりに私たちの親となられる神様を捜し仕えながら喜ぶ日だ。“この日の宣布とともに、神様の喜びが充満するようになり、栄光を受けるようになる。”³⁹ この日は寒い冬の天気の中で年越し(送旧迎新)と一緒に行われたが、2010 年からは天暦 1 月 1 日から 6 日までの一週間の祝祭に変わった。

この日を記念する祝祭文化の案としては、家庭ごとにあらかじめ準備した燈⁴⁰を照らし、聖地まで食口たちが共に燃燈行列で‘火祭り’をする。一切沈黙を守りながら、ただ従的な関係に集中し、神人一体の境地を体験する。12 月初旬から家族全体が燃燈を準備することも家庭の幸せと和睦に有意義である。火は浄化、神々しさ、神聖を象徴する。七星の燭台を準備し、この日から一つずつ点けて、真の御父母様の御生誕日まで続ける。

これはユダヤ教のハヌカ(Hanukkah, 光の日の祭り)を成約化した祝祭である。

2. 真の御父母様の御生誕日

1920 年陰暦 1 月 6 日の真のお父様の御生誕、1943 年陰暦 1 月 6 日の真のお母様の御生誕を同時に祝う祝祭である。“3 年前から家の前のネズの木に金鳥が座り、おしどりも 3 年間飛んで来て松の木に止まった。忠母様が夢で海辺を散歩している途中、黄金の龍一つがいがい昇天する胎夢を見た後で真のお父様をご懐任された。そして大母様の夢にサタン(Satan)がやって来て真のお母様を殺そうとしたが、大母様がしりぞけた。”⁴¹ “私が生まれてから家庭に災いが絶えませんでした。

先生の名前である鮮明は陸地と海と日と月を現わします。”⁴²などの内容に基づいて、金鳥、おしどり(鴛鴦)、黄金の龍、日、月、魚、羊、地球村、朝鮮半島などを象徴する燈を取り付けて食べ物を用意しながら祝祭を進行する。仮面や演劇を通じて、悪魔を退けた内容や

³⁸ 統一教、『平和神経』(ソウル: 成和出版社、2009、2010(3刷))、p. 165.

³⁹ 世界平和統一家庭連合、『8代名節及び主要記念日』(ソウル: 成和出版社、2001) p. 19.

⁴⁰ 真の御父母様御生誕日に言及した燈の種類を参考にすること。

⁴¹ 世界平和統一家庭連合、『8代名節及び主要記念日』、p. 20.

⁴² *ibid.*, pp. 25-27.

家庭の災いなどを劇化させる。そして宗教指導者の生誕を祝う意味として、他の宗教から祝いのメッセージや花輪などをもらうようにして祝祭の雰囲気高める。

苦難体験のプログラムでは、真のお父様が“私の誕生日を迎えて3年間断食をして、4年間はつつましいおにぎりを食べました。”⁴³という内容を元に、個人や家庭単位で断食、又は簡素化された食事をして食費を献金する真の愛のボランティアを支援している。

真の神の日から御生誕日までの一週間のプログラム構成を“神々しさと神秘感(1月1日)、楽しい宴と歌と踊りなどの祝祭公演(2-4日)、苦難体験(5日、恨の神様及びメシア降臨までの悲しい人類歴史体験で苦い食べ物を食べる、小食や断食など、勝利と栄光と賛美(6日)”などで進行すれば良いだろう。

これはクリスマスを成約化した祝祭だ。

3. 真の父母の日

1960年の真の御父母様の聖婚式を記念する日である。父母を中心として家庭があつてこそ、宗族、民族、国家、そして世界が存在するため、子女たちが父母へ感謝する祝祭を行う。父母が成婚式の服装で入場し、子女たちが祝賀公演を行い、贈り物を捧げながら、'幼い羊の宴'⁴⁴を祝う。子女は父母の前で真の子女として親孝行することを誓う。その後'旧約時代-新約時代-成約時代'⁴⁵を象徴する意味で、隣の三家庭以上の目上の人たちを訪ね、真の父母の日を説明しながら親孝行を実践する。

真の父母の日を迎える前の7日間、朝食断食(あるいは全体断食)をする。これは統一教創立後7年間、サタンと争って勝利したことを記念し、花嫁を迎えることができずに十字架で亡くなられたイエス様の恨みに同参し、慰めてさしあげる意義を持っている。

この祝祭はユダヤ教の無酵節の祝祭を成約化した意味を持っている。

4. 真の子女の日

1960年陰暦10月1日に真の子女の日が宣布された。第1回真の子女の日は、'サンクスギビング・デー'の名前で挙行された。食口たちは12種類の穀物を丹念に準備し、献金も捧げた。

この日は神様の栄光の席に参席することができなかつた墮落した人間たちが、歴史以後初めて栄光の席に参席できるようになったことを記念する日である。それゆえこの日は父母が子女を祝賀する。祭典の時間に父母が子女のために贈り物を準備し、子女を真の子女として育てることを誓う。

⁴³ Ibid., p. 32.

⁴⁴ Ibid., p. 53.

⁴⁵ Ibid., p. 43.

その次に成人式を行う。古代から宗教が成人式を挙げていた慣例を復活させて、子女達と子女達の友人達を招待して成人式を行う。高校 1 年生(祝福式に参加が可能な年齢)からここに該当する。このような祭りは純潔の大衆化に大きく寄与することができるだろう。成人式の一つとして、夜間登山をはじめとした克己訓練を実施したり、特別な旅行をさせたり、成人の服装を贈り物として贈呈することで、成人の意義と、役割、義務を教える。神様が創造した美しく神秘的な宇宙を体験することができる機会を提供し、元気で活力が溢れる成人になったことを祝う。

この祭りはユダヤ教の草幕節の祭りとキリスト教のサンクスギビング・デーを成約化した意味を持っている。

5. 真の万物の日

真の父母と真の子女を探し立てられた後、万物を創造本然の位置に復帰させた日である。1963 年初の真の万物の日の記念式で、真の御父母様は北に 3 歩を踏み出され、神様に敬拝を捧げ、頌歌⁴⁶を歌われ献金を捧げられた。

この時に作られた頌歌を祭りに反映する。そして動物と植物など、個人と家庭単位で好きな万物を作り記念祭りに持って来る。仮面を活用するのも良いだろうし、花祭り、動物愛キャンペーンなどを行う。現代人が自然と融和する機会をあまり持てなくなっていることを、真の万物の日に祝祭を通じて補う効果を得る。

食口たちは春に収穫した物の中から実入りのよい穀物を神様へ捧げたり、または献金を捧げる。ある教会では農産物を捧げるようにした結果、食口たちも喜び、礼拝時間により恩恵が溢れたという事例もある。神様が芸術品として作られた五穀百果を祭壇に用意し感謝の祝祭を捧げることは、それ自体が興を足すことになる。捧げられた五穀百果は、儀式が終わった後再び分けられる。神様に仕えて共に飲食しながら大家族の祝祭を享有する。

この祝祭はユダヤ教の五旬節(春の収穫祝祭)とキリスト教の聖霊降臨節を成約祝祭化したものになる。

6. 世界統一国開天日(天宙統一国開天日)

世界統一国開天日は 1988 年陽暦 10 月 3 日宣布され、2004 年 10 月 3 日には天宙統一国開天日に改定、宣布されながら、霊肉が統一された一つの国が開かれるようになることを記

⁴⁶ 世界平和統一家庭連合、『8代名節及び主要記念日』、p.105. “존귀 영광 찬양하세 만세전 이상이며. 아버님의 심정 위에 거룩하게 터를 닦아 창조 위업 펴시오니 성천 성지 시작하네. 뜻을 이어 축복하고 성자 천주 보시려고 영광 찬만하사 행복 가정 꾸미려던 천부 성업 못 받들어 인간 타락 웬말인가. 복지 분향 잃은 인간 고통 세계 보고 나니 천주 슬픔 웬말인가. 천부마저 탄식하니 우리 인생 본을 받아 사망세계 이루었네. 천부 사랑 지극하여 크신 뜻을 세우시니 복귀 천지 보시려고 잃은 자식 찾아오신 길고 긴 6 천년 길 피눈물이 웬말인가. 자녀 찾아 만물 찾아 영광 세계 재현코자 창조본성 선의 세계 주인되길 바라옵신 불변이신 그의 위업 역조창생 누리소서. 세워주신 그 뜻 앞에 가정 찾아 세수시사 만물주관 큰 영광을 허락하여 주옵시니 만세토록 승리 영광 참부모님께 드립니다. 선의 군왕 천부시여 선의 천국 받으소서. 선의 부모 천부시여 선의 백성 받으소서. 선의 주인 천부시여 선의 만물 받으소서.”

念する日になった。世界統一国が宇宙統一国になったことは個人、家庭、国家の基盤を越えて世界に移ることであり、宇宙父母、天地父母、天地人父母(実体の父母)の3段階の基準を通過することだ。1988年10月30日に'韓国-日本'を中心とした6500家庭の祝福式があり、それ以降韓国では本格的な多文化社会が始まった。そのためこの日は国際文化を公開し、体験する祝祭文化を持っている。

この祝祭はユダヤ教の草幕節やキリスト教のサンクスギビング・デーを成約祝祭化したものになる。

7. 七・一節

1971年7月1日に制定されたが、2007年から8月1日に記念日が修正された。

‘神様祝福永遠宣布式’と呼ばれ、サタンへの許し及び世界的に宗族的メシアを宣布した日として、喜ばしく、恵み多き日である。“サタンが消えサタンを許して下さったので、神様が主管する時代に入って行く。”⁴⁷ サタンが許されることによって、6千年間苦痛の中にいらっしやった神様の主権が世の中に宣布されるのであり、この宣布のおかげですべての統一教食口たちは宗族的メシアとなった。

教会では食口たち同士、あるいは隣人に向かって許す儀式を行い、宗族的メシアの任命儀式をあげ、勝利のラッパを吹きながら派遣する儀式を再演する。これは哀痛、無念さ、怒りなどを許して解きほぐしながら‘怒り治療の日’(The Day of Anger Therapy)に祝祭化するものだ。悲しみと悔い改めと怒りの涙を流し、同時に歓喜の涙を流して天一国民としての内的浄化をするのだ。⁴⁸ 神様と真の御父母様に代わり、宗族的メシアとして世の中を許してこそ大きな安らぎを享受する。最近は怒り治療が新しく注目を浴びている。各種のストレスによる犯罪増加を防ぐために、怒り治療が犯罪の予防次元で脚光を受け、‘キリスト教では宣教手段にしている。’⁴⁹ この祝祭はユダヤ教の喇叭節を成約祝祭化したものだ。

8. 七・八節(天地父母宇宙安息圈宣布)

この日は真の御父母様が77歳を迎えられ、陰暦で1997年7月7日7時7分7秒に宣布された名節である。陰暦7月7日は韓国においては伝統的に七夕(彦星と織姫の出会い)を祭る日だが、統一教の歴史においてはよくこの日を解怨思想と結びつけて論じられる。こ

⁴⁷ 世界平和統一家庭連合、『真の御父母様の生涯路程』第9巻(ソウル:成和出版社、1999)、p.233.

⁴⁸ 聖書の士師記11章にはエフタ(Jephthah)の娘が死んだことを記念しながら、娘たちが毎年家を出て野原をさまよいながら、4日間哀哭する文化を持っていた。これは家父長制に押えつけられた女性たちが、恨みを晴らしカタルシスを体験する機会を提供した祝祭文化だった。

⁴⁹ ユ・チャンヒョン、『怒り治療』(坡州市:教育科学社、2009)、p.3.

の日を期して“悲しみの涙の跡が消える時となり、神様が安息なさることができるようになった。”⁵⁰

この日真の御父母様は今まで経験された苦難の生涯と共に、新しく到来する希望と喜びの時代を眺めつつ涙をこんこんと流しながら七・八節を宣布された。

このような意義を前提として、七八節には‘贖罪の日’、‘禧年’を制定すれば良いだろう。すなわち今まで神様と真の御父母様に、父母と霊界のご先祖様に、誤ちを犯したことを悔い改める。教会では悔い改めの為の祈祷、文章作成、ボランティア活動、献品などを進行する。

この祝祭はユダヤ教の贖罪の日、安息年、禧年を成約祝祭化したものになる。

以上の名節以外にも、多様な記念日に教会の牧会者と食口たちは、記念日の意義と同時に地域的特性を生かす祝祭文化を開発する必要がある。例えば、ミョドゥサン(猫頭山)頂上でイエス様にお会いした日(キリスト教復活節)に、成和学生たちが聖地や山上で祈祷会を行ったり、大覚祝祭、監獄苦難体験プログラム、ヘリコプター事件の記念日(2008. 7. 19)に入棺体験を行うなどの、祝祭文化開発が要請される。

V. 結論

韓国は天一国創建のモデルであるアダム国家にならなければならない。このために統一教の心情多文化祝祭文化を媒介にして、心情多文化社会を成さなければならない。統一教が持つ神様に仕える祭典と祝典に世界市民たちが入って来るようにしなければならない。心情多文化祝祭という新しい文化コンテンツとして、韓国と世界を抱いて人類を天一国に案内しなければならない。

<創教者の啓示と得道 - 教理 - 祭儀 - 名節 - 祝祭文化で大衆に接近 - 新しい時代開拓>という祝祭の普遍的な発展図式にしたがって、統一教が持つ8大名節を中心に、祝祭文化コンテンツの開発を提案した。

真の神の日は水と火の祝祭、真の御父母様の御生誕日はクリスマス、真の父母の日は親孝行、真の子女の日は成人式を兼ねた子女教育、真の万物の日は万物愛、世界統一国開天日には国際文化、七・一節には怒り治療、七・八節は悔い改めなどを主題にした祝祭文化を進行すれば良いだろう。

今後とも、これに関する研究を多方面に渡って前進されねばならないだろう。

⁵⁰ 世界平和統一家庭連合、『8代名節及び主要記念日』、pp. 186-187.

<참고 문헌>

- 김수미. '다문화 갈등 느끼는데 팔짱 낀 정부'. 『세계일보』. 2011. 7. 27.
- 김태경. 『한국의 축제 다시 보기』. 파주: 한국학술정보, 2006.
- 김형기. '사제(師弟) 문화가 쓰러지면'. 『조선일보』. 2011. 7. 13.
- 노재현. '한국어 못하는 베트남 신부'. 『중앙일보』. 2011. 5. 27.
- 박연직. '남편과 사별했지만 정든 시어머니 못 떠나'. 『세계일보』. 2011. 6. 1.
- 세계기독교통일신령협회. 『문선명 선생 말씀 선집』 제 310 권. 서울: 성화출판사, 2002.
- 세계기독교통일신령협회. 『원리강론』. 서울: 성화출판사, 1966, 2006(42쇄).
- 세계평화통일가정연합. 『참부모님 생애노정』 제 9 권. 서울: 성화출판사, 1999.
- 세계평화통일가정연합. 『8대 명절 및 주요 기념일』. 서울: 성화출판사, 2001.
- 안중수. 『세계문화관광』. 서울: 백산출판사, 2007.
- 유창현. 『분노치료』. 파주시: 교육과학사, 2009.
- 이은봉. 『놀이와 축제』. 서울: 도서출판 주류, 1982.
- 최경운. '다문화시대, 軍선서문에 '민족' 사라진다'. 『조선일보』. 2011. 04. 18.
- 통일교. 『평화신경(平和神經)』. 서울: 성화출판사, 2009, 2010(3쇄).
- 통일사상연구원. 『통일사상 요강』. 서울: 통일사상연구원, 1993.
- 한국정신문화연구원. 『현대 신종교의 이해』. 분당: 정신문화연구원, 1994.
- 한창화. 『한국의 축제』. 서울: 교학사, 2006.
- Center of Korean Spirituality Awakening Movement. *100 Korean Heroes and Heroines*. Seoul: Baekryoung Building, 2009.
- Fuchs Daniel. *Israel's Holy Days*, 보이스 편집사 역. 『성경의 절기와 성일들』. 서울: 보이스사, 1985.
- Huizinga Johan. *Homo Ludens*. 권영빈. 『놀이하는 인간』. 서울: 기린원, 1989.
- Martin G.M. Fest und Alltag. 김문환 역. 『축제와 일상』. 서울: 한국신학연구소, 1985.
- M. Eliade. *The Sacred and the Profane*. New York: Harcourt, 1959.
- Nelson G.K. 'Cults and New Religion : Toward A Sociology of Religious Creativity', *Sociology & Social Research*. 1984.